

第14回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための図上訓練

今やりたい！

プラスアルファ

災害時の「多様」に気づき、地域の備えに+α

報告書

開催日：2019年2月23日（土）・24日（日）

会場：常葉大学静岡草薙キャンパス



主催：特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会
共催：静岡県、社会福祉法人静岡県社会福祉協議会・市町社会福祉協議会、常葉大学地域貢献センター
協力：一般社団法人静岡県労働者福祉協議会、公益財団法人静岡県労働者福祉基金協会、
連合静岡、静岡県労働金庫
実施主体：特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会、第14回図上訓練ワーキンググループ
助成：日本財団

静岡方式の図上訓練とは？

この訓練は、被害想定から対応を検討する「シミュレーション型訓練」ではなく、与えられた問題の解決策を検討する中で、その問題と問題を抱えている地域への理解を深め、予防や人材発掘、ネットワークづくり等を広く深く考えようという「ワークショップ型図上訓練（頭で考える頭上訓練とも）」です。

平常時から静岡県内外の災害ボランティアと関係者が信頼関係の構築と情報交換を行ない、市域、県域、県外との「つながり」を意識した支援体制づくりを図るため、東海地震を事例に静岡県内外の人たちが共に考える機会として始まりました。県外からの関係者も多く参加していることから、広域災害時の「受援」を意識した訓練として、全国的にも注目されています。

第14回の訓練テーマは「今やりたい！災害時の『多様』に気づき、地域の備えに+α（プラスアルファ）」。
被災者、被災地の困りごとに対応するには、多様な関わりや取り組みが欠かせません。そこで今回の訓練では「多様」の事例を学び、「次のアクション“+α（プラスアルファ）”」を起こすことを目指しました。

こんな工夫をしています

1. 事前課題を参加要件に
2. 個人参加は原則不可
3. 常に複数の人で考え、意見を出し合う
4. いい訓練だったね で終わらせない訓練後をイメージしてのプログラム（次のアクションへ…）
5. 参加するだけで「お土産」がある
6. できない→やらない ではなく、どうしたらできるかに気付くきっかけの付与
7. 被災した方 を基本に 支援者都合をなくす

どんな訓練？（財源）

開催(年度)	財源	共催・協力
第1回(2005)	静岡県の委託事業	
第2回(2006)	+	
第3回(2007)	静岡県ボランティア協会の自主事業	
第4回(2008)	第6回訓練の5日後に東日本大震災が発生	
第5回(2009)		・静岡県
第6回(2010)		・静岡県社会福祉協議会
第7回(2011)		・県内市町社会福祉協議会
第8回(2012)	公益財団法人 静岡県労働者福祉基金協会の委託事業	・静岡県労働者福祉協議会
第9回(2013)		・連合静岡
第10回(2014)		・静岡県労働金庫
第11回(2015)		・ダイドードリンコ
第12回(2016)		・伊藤園
第13回(2017)		・NTT西日本静岡支店
第14回(2018)	(公財)日本財団の助成事業	第13回より ・エム・ピー・エス(株) ・常葉大学地域貢献センター

第13回、第14回は日本財団の助成を受けて実施しました。第4回から12回までは(公財)静岡県労働者福祉基金協会の委託事業として実施しています。

参加者の主体性が生む効果

- ・何よりも県外の多様な地域からの参加者と知り合いになり、新たなつながりが生まれている
- ・訓練を通して知り合った仲間同士が日常的に連絡を取り合うようになり、お互いの地域の防災訓練等に参加するなどの動きにつながっている
- ・参加者属性も被災地支援や地域防災等に偏らず、多様な分野の参加者が「図上訓練」をキーワードに集い、日頃からの顔の見える関係づくりに寄与している

どんな訓練？（参加者数）

参加者数	県内	県外	見学・ピジター	その他	合計	プログラム企画
第1回	102	24	25	31	182	訓練世話人会
第2回	72/80	36/46	9/12	23/24	302	訓練世話人会
第3回	108/115	57/57	18/14	22/40	429	訓練世話人会
第4回	164/169	89/88	4/4	33/37	588	ネットワーク委員会
第5回	206	83	17	35	335	県外若手有志
第6回	162	74	14	49	297	ワーキンググループ
第7回	193	90	21	39	343	ワーキンググループ
第8回	219	117	7	80	423	ワーキンググループ
第9回	176	119	41	85	421	ワーキンググループ
第10回	155	71	54	54	334	ワーキンググループ
第11回	127	60	55	67	309	ワーキンググループ
第12回	135	60	54	64	313	ワーキンググループ
第13回	119	61	69	64	313	ワーキンググループ
述べ	2,302人	1,132人	418人	747人	4,586人	

14年間に4,930人の方が参加しました！

参加者の属性は？

- ・災害ボランティア（現地活動未経験者を含む）
- ・災害ボランティア関連講座の受講修了者
- ・社会福祉協議会職員（ボランティアセンター担当など）
- ・被災地支援を行う国内NPO・NGO
- ・市民活動団体（各種）やNPO・NGO
- ・士業（弁護士、司法書士、行政書士など）
- ・行政職員（県、市町村、内閣府など）
- ・大学・研究機関、業界団体
- ・地縁組織（自治会、自主防災会、民生委員、消防団など）

〈プレセミナー資料より〉

第14回図上訓練の参加団体・参加者数

	県内	県外	計
参加団体・機関	98	61	179
参加者数（人）	244（27市町・県）	100（184都道府県）	344

*企画ワーキンググループ、事務局等の関係者を含みます

プログラム

プレセミナー「図上訓練って何？」 ～静岡式図上訓練13年のあゆみ～

初参加者を主な対象に、訓練に先立ち静岡式図上訓練の解説や過去の訓練の様子を知ることができる自由参加型のセミナーを行い、100名を越える人たちが参加しました。これまで訓練に参加したことのある方々の関心も高く、訓練への理解を深めてもらうことができました。

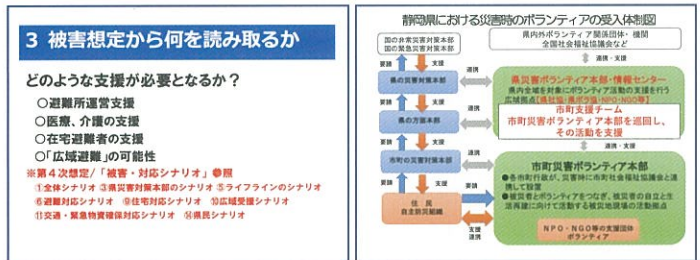


【解説】小村隆史氏（常葉大学社会環境学部准教授）

【進行】松山文紀氏（震災がつなぐ全国ネットワーク 事務局長）

訓練の目的や県内の体制等の共有

今回の訓練の目的や2日間のプログラム内容を共有するとともに、この訓練が参加者全員で作り上げていく訓練であることを確認しました。また、静岡県第4次地震被害想定について知り、なぜ被害想定をつくるのか、被害想定から何が読み取れるのかを学びました。さらに、静岡県内で大規模災害が起こった際に考えられているボランティア活動支援体制について知り、県域での災害ボランティア活動がどのようなものかイメージしました。



【被害想定】杉山 徹氏（静岡県危機管理部危機情報課班長）

【支援体制】松永和樹氏（静岡県社会福祉協議会主任）



ワークプログラム

ワークプログラム1「災害時の事例から学ぶ『多様』な〇〇」

災害時には「多様」なニーズが発生し、その支援を行うためには「多様」な連携、立場（所属）、社会資源、視点、取り組み等が必要となります。1日目のワークプログラムは、被災者（避難者）がどのような状況に置かれ、どのような困りごとを抱えるのかを「多様」な視点でイメージするため、まず3名の被災当事者、支援者等の関係者から実際の事例を学び、それらを踏まえて行ったワーク①「『多様』ってなんだろう？」を通して、災害時の「多様」の必要性を考えました。

ワークは県内外混成の5～6名のグループで行い、各グループには話し合いのお手伝いをするファシリテーターが入りました。また、事例報告者の皆さんにはグループ発表へのコメントもお願いしました。

<ワーク>

各自で「①多様な人・被災者 ②多様な困りごと ③多様な支援 ④その他」を書き出し、グループ内で意見を共有。次に「①どのグループもきっと書いてあるだろうキーワード ②他のグループはきっと書いていないキーワード」を一つずつ選び発表。他の人やグループの発表を聞いて、さらに意見を出し合い「多様」のキーワードをできるだけ多く出し、最後にワークを通して自分が「大切にしたい『多様』」「考えてもみなかった『多様』」「気になった『多様』」「新たに気づいた『多様』」などを選びグループ内で共有した。

【事例報告者】

園田ひろみ氏（熊本県嘉島町 町民課 戸籍係長）

熊本地震で行政職員として避難所運営を担当した園田さんに、避難所運営の中で直面した多様な課題と、その中から感じた多様な学びを中心に報告いただきました。

荒井康子氏（仙台市男女共同参画推進センター エル・ソーラ仙台 管理事業課長）

東日本大震災での女性を対象とした多様な支援プログラムと、そのプログラムに至った被災地の女性の多様な困りごとを中心に報告いただきました。

横田能洋氏（(認特活)茨城NPOセンター・コモンズ 代表理事、たすけあいセンター「JUNTOS」センター長）

常総水害の際に、社会福祉協議会の災害ボランティアセンターとは違う視点で立ち上げた多様な拠点と、地域の中で災害に立ち向かうための多様な連携を中心に報告いただきました。



園田ひろみさん



新井康子さん



横田能洋さん

ワークプログラム

ワークプログラム2 「事例から学ぶアクションの起こし方」

2日目のワークプログラムでは、過去の図上訓練で新たに知り合った団体と連携した取り組みや、地元の関係者を巻き込んで工夫した取り組みを始めた事例等を学び、事例をヒントに既存の取り組みに「+α」できること（新規の取り組みを含む）を検討し、次の一步を踏み出す（＝アクションを起こす）方法を考えました。ワークは1日目と同じグループで行いました。

<ワーク>

まずは各自が行ってきた事前課題について、静岡県内ではどのような取り組みがあるのか、県外団体はどのような強みを持っているのかを共有。続いて県内プレイヤー一人ひとりが選んだ「既存の取り組みの中で自分が『+α』したい取り組み」についてグループ全員で話し合った。取り組みを選んだ人は、「こんなこともできるのでは？」といった視点でのアドバイスや、悩み・課題の解決方法を参考に「+α（または新規）のアクションプラン」をつくり、それをグループ全員でさらに良いものに仕上げていくワークを通して、一人ひとりが「地域の備えに『+α』」できそうなアクションプランを具体化し、持ち帰った。

【事例報告者】

梶原孝亮氏（福川根本町社会福祉協議会 専任職員）

2012年の本図上訓練で県外の大学生たちと知り合ったのをきっかけに生まれた取り組みと、現在も続けているそのつながりのコツを報告いただきました。

牧野善浴氏（(特活) 静岡市障害者協会 会長）

障害者の防災・減災活動と、地域の自主防災組織と連携して取り組んでいる訓練について報告いただきました。

横田能洋氏（(認特活)茨城NPOセンター・コモンズ 代表理事、たすけあいセンター「JUNTOS」センター長）

常総水害をきっかけに生まれた、サロンや定期協議といった場づくりの取り組みについて報告いただきました。



梶原孝亮さん



牧野善浴さん



事例報告 - 参加者の声より -

- ❖ 園田さんの「災害対応に関する何の知識も準備も心構えもなく、毎日悩みながら対応した」という部分に共感しました。
- ❖ 園田さんのお話がとても分かりやすかった。人によって照度・におい等感覚のちがいはあることは盲点でした。
- ❖ 荒井さんが報告された「せんたくネット」の仕組みは「なるほど、その手があったか」と目からウロコでした。
- ❖ 仙台の取り組みから、支援される側が支援する側にまわるといふことの効果が大きいことを学びました。
- ❖ 梶原さんのお話は非常に大切なトピックだと思いました。外部の支援組織、特に遠方の支援組織とどう無理なく付き合っていくか、どの自治体でも大きな課題だと思いました。
- ❖ 川根本町さんの報告が参考になった。つながりをどう活かしていくか、できることから行動に移していくことが大切だと強く感じた。
- ❖ 牧野さんの「リアルHUG(避難所運営ゲームのリアル版)」は、その発想自体なかなか持てなかったのとても驚きました。実際に動いてみなければわからないことが多くあるのだと思いました。
- ❖ 自分も障害を持つ子供がいるので2日目の牧野さんの事例報告は大変参考になりました。

- ❖ 横田さんのお話と取り組みがとても印象に残りました。地域の住民といかに一緒に活動して、その地域をもりあげていくかの視点が大切だと改めて感じました。
- ❖ 横田さんには具体的な解決策を紹介していただき、勉強になりました。支援者になるべく入らず、いかに住民同士で動いてもらうかの仕掛け、説得材料を伝えることが大切。
- ❖ 横田さんの報告で、社協災害ボランティアセンターとNPOの連携がうまくいった例をよく理解することができ、参考になった。
- ❖ 現場の声を詳しく聞くことができたので、ワーク活動の参考になった。それぞれの事例から、さらに知りたいことや、自分の学びに発展させて考えたいことが見つかったので勉強になった。
- ❖ 両日とも課題・解決があり、わかりやすく参考になりました。たくさんのヒントをありがとうございました。
- ❖ 他地域との連携や、発災前のつながりはとても大切なものだと思います。
- ❖ 実際に被災した方の話を、成功談だけでなく失敗談などまで聞くことができ、とても参考になった。
- ❖ 多様なニーズに対して様々な想定をしても、実際の災害時には臨機応変な対応が必要だとあらためて感じました。



ワーク –参加者の声より–

- ❖自分の悩みなどを親身になって考えていただけたことが嬉しかったです。また、同じような悩みを持っている人も多く、親近感が湧きました。
- ❖参加者の皆さんがいろいろなアイデアをお持ちで、柔軟な発想ができる方ばかりだったので、逆にファシリテーターが気づかされることが多くあった。
- ❖わかりやすい形で多様が実感できるプログラムでした。静岡県の市町も混合だったため、より多様な見方、考え方を体験することができました。
- ❖多様の意味もわからず参加したら多様の無限さを知ることができました。グループの皆さんにたくさんアドバイスいただきたいような考え方切り込み方を教えていただきました。
- ❖「多様」というテーマが大きすぎて難しかった。
- ❖自分たちの日頃の活動をふり返ることによって、これからはなければならないことが少し見えて来た。
- ❖見方を変えると、窓口が沢山あるのがわかった。

参加者交流会 ～新たな「つながり」へ+α（プラスアルファ）



プレイヤー、ビジター、事例報告者の方々や企画運営スタッフを含めた参加者が互いに知り合い、新たなつながりをつくり、あるいは深めることを目的に、プログラムの一環として交流会を行いました。交流会は、自分の生まれた“日”ごとのテーブルに分かれてスタート。歓談の輪が広がりました。「あのの人に会いたい！コーナー」や県内市町のPRタイム、また参加者持ち寄りの“自慢の一品”を楽しみながら、さまざまな人や地域の“多様”を感じることもできました。



ビジタープログラム

初心者や、災害ボランティア以外のさまざまな分野で活動する団体・組織の人たちも参加しやすいよう、ビジター参加の枠とプログラムを設け、災害ボランティアや本訓練についての説明、訓練見学のほか、オープンドア形式のセミナーを行いました。プレイヤー訓練の見学にあたっては、事前にワークのねらいや内容、見どころなどを説明し、訓練会場での質疑はワークプログラム担当の企画チームメンバーが対応しました。セミナーでは、企業、行政、土業の方をゲストに迎え、事例報告と質疑応答や対談形式でお話を伺い、さまざまな具体例を通して「多様」のイメージを広げました。

【セミナー1】

「浜松の企業が手をつなぐ西日本豪雨災害ネットワーク（はままつ na net）活動報告」

事例報告者：柳原一貴氏（はままつ na net 代表世話人）

西日本豪雨災害を機に、浜松市内の企業がつながりながら支援活動をするを目的に発足した「はままつ na net」について報告いただきました。

【セミナー2】

「突然の被災、その時行政は」

事例報告者：園田ひろみ氏（熊本県嘉島町 町民課 戸籍係長）
ワークプログラム1で報告いただいた避難所運営について、さらに深く伺いました。



園田ひろみさんと、静岡市駿河区役所の石井克佳さん

【セミナー3】

「静岡県行政書士会の取り組み」

事例報告者：藤田由香子氏（静岡県行政書士会 理事）

静岡県行政書士会が、災害時に備えてどのような取り組みを進めているのか、取り組みに至った経緯も含めてお話いただきました。



柳原一貴さん(左)と、「はままつna net」事務局 サクラ工業の田中正孝さん



藤田由香子さん(左)と、行政書士の曾根順子さん

ビジター –参加者の声より–

- ❖ 機動力に富んだ企業の方々への支援は頼もしく思いました。自分たちのできる支援を行うといった、身の丈に合った支援の成功例を聞くことができ、良かったです。
- ❖ まだまだ視点を変えることによってサポートできる場面がたくさんある事を感じた。
- ❖ 行政もわからない中で考えながら動いていることを知れたことがよかったです。避難所運営への協力を積極的にしていきたいと思えます。
- ❖ 様々な団体や行政が有機的に繋がることの重要性や、こうした訓練の場が有益な繋がりを生んでいることを知りました。
- ❖ ワークを見学していると皆さん楽しそうに話されている方が多く、一緒に参加したいと思いました。

第14回静岡県内外の災害ボランティアによる救援活動のための向上訓練プログラム	
【2/23 (土)】	
時間	内容
11:00~11:45	プレセミナー 講師：小村隆史氏（常葉大学静岡専攻キャンパス社会環境学部 准教授）
開会・オリエンテーション	
12:30	閉会 閉会挨拶 小野田宏（特活静岡県ボランティア協会理事長） 金崎子明氏（静岡県危機管理部長兼危機管理監代理） 室任洋司氏（常葉大学地域貢献センター長） 堀田英夫氏（日本財団経営企画部長） オリエンテーション ・2日間のプログラム紹介・スケジュール、他
訓練の目的や県内の体制等の共有	
13:00	・訓練の目的共有 ・静岡県第4次地震被害想定について ・県内の連携支援体制
13:45	休憩
【ワークプログラム1】災害時の事例から学ぶ「多様」なOO [15:00~17:00、ビジターは別プログラムになります]	
14:00	事例報告 ＜事例報告者＞ 園田ひろみ氏（熊本県嘉島町 町民課 戸籍係長） 荒井康子氏（松山市男女共同参画推進センター エル・ソラ台 管理事業課長） 横田健作氏（静岡県英城 NPOセンター・コムズ 代表理事）
15:00	休憩・移動
15:15	ワーク1「多様」ってなんだろう？ ・アイスブレイク ・ワークの説明 ・ワーク ・まとめ 【ビジタープログラム】 ・オリエンテーション ・セミナー ・企業としての被災地支援 ・ワーク見学タイム ・ふりかえり
17:00	移動・休憩 柳原一貴氏（はままつna.net 代表世話人） ワーク見学タイム ふりかえり
交流会	
17:30	「新たなつながり」へα（V327277） 乾林・挨拶
～19:00	岩田孝仁氏（静岡県防災総合センター長 教授）

【2/24 (日)】	
時間	内容
2日目受付（8:40～）	
【ワークプログラム2】事例から学ぶアクションの起こし方 [10:40~14:25、ビジターは別プログラムになります]	
09:00	事例報告 ＜事例報告者＞ 梶原孝典氏（(財)川根本町社会福祉協議会 専任職員） 牧野善治氏（特活静岡の障害者協会 会長） 横田健作氏（静岡県英城 NPOセンター・コムズ 代表理事）
10:40	休憩・移動
10:55	ワーク2「+α（V327277）のアクションへ！」 ・ワークの説明 ・ワーク 【ビジタープログラム】 ・オリエンテーション ・セミナー まとめ 14:25 休憩・移動 園田ひろみ氏（熊本県嘉島町 町民課 戸籍係長） 藤田由香子氏（静岡県行政書士会 理事） ワーク見学タイム ふりかえり
全体ふりかえりとまとめ	
14:40	・これからの時間の説明 ・ビジターのふりかえり ・ふりかえりシート記入 ・V327277
2日間の総括コメント 小村隆史氏（常葉大学静岡専攻キャンパス社会環境学部 准教授）	
15:25	閉会挨拶 小野田宏（特活静岡県ボランティア協会 理事長）
15:35	閉会 謝辞・前泊費のお渡し
※プログラムは変更する可能性があります。あらかじめご了承ください。	

訓練の企画・運営

この訓練の実施にあたっては、県内外の若手を中心とした企画・運営ワーキンググループを設置しています。第14回訓練のワーキンググループは準備会を経て7月から本格的に動き出し、7回の会議で担当チームごとの検討と全体共有・協議を重ねながらプログラムづくりと運営準備を進めました。

半年以上に及ぶワーキンググループは、特に被災地支援の経験が少ない県内メンバーにとって、会議自体が学びと訓練の場であり、多様な支援者とつながる機会になっています。訓練の回を重ねるごとに、県内メンバーが中心となり企画運営を主体的・積極的に担えるようになっており、静岡県内の人材発掘と人材育成にもつながっています。

【第14回図上訓練ワーキンググループ】

松島一博（浜松市災害ボランティア連絡会）
 鈴木まり子（（特活）日本ファシリテーション協会）
 原田博子（（特活）はままつ子育てネットワークぴっぴ）
 福地弘倫（（社福）小羊学園）
 紅谷 純（浜松市障がい児放課後支援連絡協議会）
 伊藤 翼（（社福）浜松市社会福祉協議会）
 田中正孝（サクラ工業（株））
 曾根順子（市民団体「ふっこう支援掛川」）
 内山 瑛（（公社）日本青年会議所東海地区静岡ブロック協議会）
 鈴木ゆみ（（一社）磐田国際交流協会）
 川津貴臣（（社福）静岡市社会福祉協議会）
 松永和樹（（社福）静岡県社会福祉協議会）
 萩原美栄子（（特活）男女共同参画フォーラムしずおか）
 千代幸嗣（清水災害ボランティアネットワーク）
 石井克佳（静岡市駿河区地域総務課）
 中井貴弥（（特活）静岡県ボランティア協会）
 津田和英（（特活）ホールアース研究所）
 太田智久（富士市防災危機管理課）
 村松恭佑（静岡県学生ボランティア団体「うちっち」）
 熊谷颯人（静岡県学生ボランティア団体「うちっち」）
 丸山陽一（（社福）富士市社会福祉協議会）
 仲田慶枝（西伊豆町災害ボランティアコーディネーター連絡会）
 玉木優吾（松崎町災害ボランティアコーディネートの会）

松山文紀（震災がつなぐ全国ネットワーク）
 頼政良太（被災地NGO協働センター）
 福田信章（東京災害ボランティアネットワーク）
 津賀高幸（（株）ダイナックス都市環境研究所）
 成田 亮（（特活）全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD））
 辛嶋友香里（（一社）ピースポート災害ボランティアセンター）
 鶴木由美子（（特活）難民支援協会）

◇協力者・オブザーバー

橋本葉一（（一社）地域・人材共創機構）
 山本あす香（静岡県危機管理部危機情報課）
 堀井崇成（静岡県健康福祉部福祉長寿局地域福祉課）
 藤森香奈（静岡県くらし・環境部県民生活局県民生活課）

☆そのほか、これまでの訓練でワーキンググループの経験がある人たちが、前日の準備や訓練当日の運営などに力を貸してくれました。

第14回訓練ワーキンググループ会議の開催日

回	開催日	回	開催日
準備会	5月14日（月）	第5回	12月11日（火）
第1回	7月19日（木）	第6回	1月25日（金）
第2回	8月24日（金）	第7回	2月6日（火）
第3回	9月14日（金）	ふりかえり	3月11日（月）
第4回	10月18日（木）		



<お問い合わせ先> 特定非営利活動法人 **静岡県ボランティア協会**

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館 2階
 TEL：054-255-7357 FAX：054-254-5208
 E-mail：evolnt@mail.chabashira.co.jp

この報告書は日本財団の助成を受けて作成しました